

おたびら如来(大旨)

大旨の氏神さんである八幡神社の入口に、大日如来をおまつりしてあるお堂がある。

そのお堂のなかには、大きな大日如来と、小さな大日如来とが、おまつりしてある。

ところがその小さい方の大日如来は、あるとき近くの丹生谷嶺の山の中で、みつかってお堂へつれてきたものであるが、「これは天からおりてこられたものにはがいないといわれ、しかも山の中におちていたあとには、おたへらあへら(おたへら)をかいていたような、水たまりのどろどろのあとがあった」と、いい伝えられている。

そんなことから、いつからとはなして、「この小さい方の大日如来は、雨ごいの伝をまたとこついでになり、ひびりがつづいたりするときには、村の人たちによつてもちだされ、「あめたんまね、池も川もかんからや」と大声でさけびながら、小さい大日如来が、おたびらをかいておちていたところへつれていった。

そして、鐘や太鼓をさわがしくうちながら、「あめたんまね」をくりかえし、そのあともつていった大日如来と、おたへらをかいていた水たまりの水と、どろどろのどろどろのあとをこついでにもちかえり、大日堂のお堂の屋根へ、そのどろどろをまたならしくすすりつけると、だれもあつたことがないといわれ、ついでに、おたへらあへら(おたへら)をかいていたところへつれてきたと、いわれている。



だいにちさん